

2016 リオ・2020 東京 オリンピック競技大会に向けて

- ① 複数の金メダル獲得
- ② メドレーリレーでの金メダル獲得
- ③ 二桁以上のメダル獲得
- ④ 自由形種目でのメダル獲得(リレーを含む)
- ⑤ 29 種目以上決勝進出
- ⑥ 競泳 58 種目フルエントリー

***2015 年世界選手権(カザン)個人優勝者に2016 年オリンピック競技会
(リオデジャネイロ)突破種目の出場権利を付与する
(選考会は同種目出場を条件とする)**

上記の①～⑥は2020 年東京五輪での水泳(競泳)の目標である。

- ① 「日本水泳連盟の2020 年構想」(2011 年に発表)では金メダルランク上位5 位以内目標となっている。その為には複数の金メダルは必須。(過去はロサンゼルス 5:ベルリン 4:アテネ 3:ミュンヘン 2:北京 2)
- ② メドレーリレーでの金が取れば史上初。(メダルは過去、ローマ男子 銅・シドニー女子 銅・アテネ男子 銅・北京男子 銅・ロンドン男子 銀、女子 銅)
- ③ ロンドンの11 個は、アメリカに次ぐ2 番目。(過去、ロサンゼルス 12・ベルリン 11)
- ④ 自由形は最も速い泳ぎ。「最も速い泳ぎでメダルを取る」これは意義がある。(アムステルダム 2・ロサンゼルス 6・ベルリン 7・ヘルシンキ 3・メルボルン 2・ローマ 2・東京 1・アテネ 1) 金メダルは(ロサンゼルス 3・ベルリン 2・アテネ 1) 800リレーは(アムステルダム 銀・ロサンゼルス 金・ベルリン 金・ヘルシンキ 銀・ローマ 銀・東京 銅)
- ⑤ フルエントリー58 種目の半分。これが達成できれば、①～④のメダルの可能性は大きくなる。
- ⑥ この目標が最も難しい。FINA のA 標準を2 名とも(個人種目)突破しなければならない。このことが実現すれば、日本水泳連盟の派遣標準記録の設定は必要なくなる。(最終目標)